

〔今月の詩編〕  
第28篇

嘆き祈るわたしの声を聞いてください。

至聖所に向かって手を上げ

あなたに救いを求めて叫びます。

## 子供のように

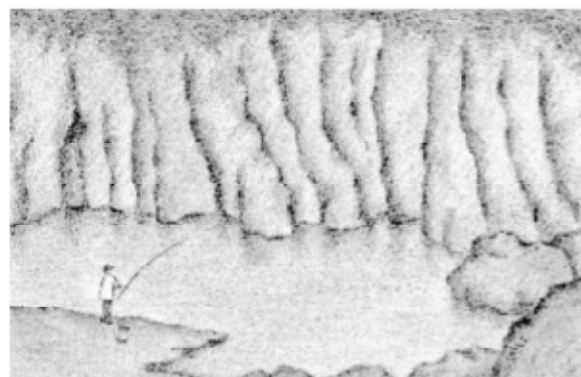
主イエスと一緒に生活していた弟子たちには、衝撃的な出来事を経験がいくつかあったと思いますが、今日の箇所が伝える出来事も、そのひとつです。

主イエスのもとへ、親に連れられた子どもたちが来ました。当時、有名なラビに祝福してもらおうと幸せになるという言い伝えがあって、主イエスに祝福していただこうと、親たちが連れてきたのです。

でも弟子たちは、この親を叱りました。主イエスは神の国の宣教に忙しく、子どもに心を注いでいる暇はないと思ったのです。でも主はこれを見て憤られ、子どもたちを妨げてはならないと言われました。さらに、神の国は、子どもたちのような者の国であり、子どものように神の国を受け入れなければ、決してそこに入ることはできない、と断言されたのです。

この主の言葉は、弟子たちを困惑させたでしょう。神の国は、主の御心に従って善い行いをした人が入るものだと思っていたからです。でも子どもにはそのようなことは、できません。神の国がどうして子どものようなものの国なのでしょう。

主が十字架にかかられる前、主は弟子たちが皆ご自分を見捨てて逃げるだろうと予告されました。弟子たちは一様にそれを否定します。しかし事実は主の予告通りでした。特にペトロは、主が捕らえられ、引き立てられて行った大祭司の家の庭で、人々に問い詰められ、三度主との関係を否定してしまいます。鶏の鳴く声に我に返った彼は、激しく泣いたのです。



でもその時、彼にわかったことがありました。自分は主の一番弟子だと思っていましたが、でも本当は、到底弟子にはなれない自分を、主が愛し、導き、支え、世話をしてくださったから、弟子でいられたのでした。「わたしのところに来させなさい」と主が言われた、あの子どもたちとは、自分のことだと気づいたのです。

金持ちの青年の話も、これと共通しています。永遠の命を受け継ぐにはどうすればよいかと尋ねて、十戒の言葉を示された時に、彼が「はい、わかりました」と言って帰れば、何の問題もなかったのです。でもこの人は、そんな子どもでも知っていることではなくて、と言いついてしまいました。その時に彼は、神の国への道を、自分で閉ざしてしまったのです。そして主が彼を慈しんで見ておられたことにも気づかずに、立ち去ってしまったのです。

わたしたちが知らなければならないことは、自分がどれほど周りの人に支えられ、助けてもらい、我慢をしてもらっているかということです。本当は、自分は小さい者なのに、それに気づかず、大きい者だと思いつこんでいるのです。本当は、わたしたちは、周囲の人にも、神さまにも、「ありがとうございます」としか言えない人間なのです。そして神の国は、そういう者たちのものだ、と、主は言われたのです。

(マルコ10・13～22)

## 《 今日の礼拝 》

2018年8月12日 (日)

夏期礼拝 (10:00より)

司 式 宮間 彰広 兄  
聖餐司式 吉村和雄 牧師

- 前 奏 「世の始めさながらに」 L.S.M.
- 讃 美 「山も野辺も空も」
- 十 戒
- 告白の祈り
- 献 金 ソプラノによる讃美  
「Precious Lord, Take my hand」 Gerge.N.Allen

- 奉 献 頌
- 使徒信条
- 牧会の祈り
- 主の祈り
- 聖書朗読 マルコ10章46～52節 (新約P.83)

- 説 教 「イエスの足を止めた男」  
菊池 美穂子 副牧師

- 讃美歌 「讃美歌Ⅱ 189番」 (1、2編)
- 聖 餐 「トッカータ」 G.ルズカが イ
- 報 告
- 頌 栄
- 派遣の言葉
- 祝 福
- 後 奏 「フーガト長調」 F.メンデルゾーン

## 《 今日のお知らせ 》

- 本日12時からアブラハムの会がシオンルームで行われます。どうぞご参加下さい。
- 今週は教会と事務所が閉じられます。建物内に入ることはできませんので、ご注意ください。
- 次週19日の礼拝後、教会全体の大掃除を行います。どうぞご協力ください。

## 《 次週の礼拝 》

夏期礼拝 (10時00分)

- 讃美歌 山も野辺も空も Ⅱ 189番
- 説 教 「人に捨てられた者が」
- 聖 書 マルコ12章1～12節
- 説教者 宮間 彰広 兄

